

ミニギャラリー

▼熊野第二小学校 1年

友岡 大治

【評】学校で飼っているチャボを近くからよく見てかいています。クレヨンで、しっかりとぬって、羽の感じをよく表しています。



(敬称略)

▲熊野第二小学校 5年 笠井 梨沙

【評】文字のバランスを考えながら、勢いよく力強く書いた作品です。一文字一文字でいねいに仕上がっています。



熊野の自然 (156)

ヒガンバナ

(ヒガンバナ科)



秋の彼岸のころ咲く「彼岸花」。川の土手や畦道などに群生し、赤い炎となつて咲き誇ります。別名の「曼珠沙華」は、古代インドの言語である梵語で赤い花を意味します。花が終わると、つやのある細長い葉をたくさん出します。冬、ほかの草が枯れている間に太陽の光を独り占めして地下の鱗茎に養分を蓄え、春の終わりに枯れ、夏は休眠します。多くの草とは逆の賢い戦術です。花と葉は同時には見られないので、「葉見ず花見ず」とも呼ばれます。日本のヒガンバナは、染色体数の関係で種子ができず、鱗茎が増えて繁殖します。有毒ですが、飢饉の年には

鱗茎をすりおろし何度も水でさらして毒をとり除き、残ったでん粉を食用にしました。壁土に混ぜてネズミの害を防ぎ、虫がつきにくいので糊としてふすまなどの下張りに使いました。膝のはれには、鱗茎をすりつぶし小麦粉と混ぜて足の裏に貼ります。

人里近くに生えるので、古い時代に中国から渡来し広がったと考えられています。方言が千以上もあるといわれ、広島県では、カジバナ、キツネバナ、シビトバナ、ユウレイバナなどがあります。熊野町では、ニユウドウバナ、チョウチンバナなどと呼ばれていました。花の近くで茎を折り、提灯のように垂らして遊んでいたそうです。庭植えは嫌われますが、丈夫で美しく、もっと使われてもいいと思つたのですが・・・。属名のリコリスは、ギリシャ神話の海の女神の名前です。

【写真・文 富沢由美子】

町の人口と世帯数 (前年同月比較)

平成14年7月31日 平成13年7月31日

26,188人...人口...26,117人
12,818人... 男 ...12,768人
13,370人... 女 ...13,349人
9,714 ...世帯数... 9,551

熊野町の火災と救急 平成14年7月中

火災	0件	死者	0人
死傷	56件	救急搬送	55人

火災と救急の通報は119番

その他、消防の問合せ・相談はこちら
海田地区消防署熊野出張所
TEL854-1103

今月の題字

熊野高校1年生

中野 夕貴さん

